

全体の概要

本校正答率は、県とほぼ同じである。到達度分布でも、「十分達成」「おおむね達成」「要努力」の割合は、県とほぼ同様の数値を示している。無解答率は、42設問中約半数の19設問において県を上回ったが、そのほとんどが2.0%以内であり、危惧するには及ばないと思われる。むしろ、無解答率ゼロの設問が13あることから、最後までなんとかして解こうとする意欲がうかがえる。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
話すこと・聞くこと	<p>本校正答率は、県とほぼ同じである。設問ごとにみると、「同じ意図で質問する」問題が県より低い。この場合の「同じ意図」とは、相手の発言に対してさらに具体的な内容を尋ねることだが、その理解ができなかったと思われる。</p>	<p>直前の回答に対してどのような意図で質問しているかを理解し、それを踏まえて回答に対するふさわしい質問を考えるような、インタビュー形式の会話のやりとりを演習させる。話の流れに沿って内容を理解しながら、さらに知りたいことを見いだしていくような態度も併せて養っていく。</p>
書くこと	<p>本校正答率は、県をやや下回っている。県を上回る設問もあるが、B問題の「条件作文」が極端にできていないため、全体としては下回った。複数の条件を満たして書く作文が苦手だと言えるだろう。</p>	<p>設問の内容に合うように、さまざまな条件に留意しながらひとまとまりの文章を作り上げる演習を行う。条件の少ない易しい問題から取り組み、徐々に条件数を増やして段階的に力をつけていきたい。</p>
読むこと	<p>本校正答率は、県をやや下回っている。最も低かった設問は「説明的な文章の要約」だった。内容を押さえながら、速く正確に要点をつかむ力が求められる。</p>	<p>論の展開を追いながら、中心部分と付加部分、事実と意見などを読み取る学習を継続していく。また、比べてあるものやキーワードにも意識して読み取っていくことを常々確かめていく。</p>
言語事項	<p>本校正答率は、県をやや上回っている。漢字の読みは県と同等、漢字の書きと語句に関する知識はそれぞれ県をやや上回っている。県との差が最も大きかったのは、「青さ」を名詞と見抜く設問だった。逆に、手紙の後付けの訂正は県より大きく上回っていた。</p>	<p>漢字の読み書きや語句に関する知識については、出来不出来に関わらず日常的に習得を図っていく。文法については、断続的な学習のためになかなか理解が定着しないが、折に触れてフィードバックしながら3カ年のスパンで取り組んでいきたい。</p>

全体の概要
 全体の正答率は、昨年4月、12月調査よりやや上回っており、県平均と同程度である。観点別にみると、知識を応用して答えを導くことや問題文の読み取り、理解はおおむねできている傾向にあり、正答率も高い。しかし、数の四則計算、文字式、方程式などの「技能」を苦手としている生徒が多い。また、要努力の生徒の割合が高くなっている。領域別正答率では「数と式」「図形」が県平均と同程度かやや下回っている。特に、数や図形の性質を文字を用いて説明する問題について顕著である。また、記述式の設定に対しては無解答率が高い。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
見方や考え方	<p>全体としては県の平均とほぼ同様かやや上回る結果となっている。問題13問中、県の正答率にとどかなかった問題は4問である。「図形の証明」や「比較して説明する問題」は県の正答率を大きく上回っている。また、差が大きかったのは、「数の性質を文字を使って説明する問題」であった。ただ、言葉による説明や証明等に関して無答になってしまう生徒の割合もやや高く、苦手意識を持っていると思われる。</p>	<p>見方や考え方を問う問題は、難易度も高く、思考を問われるため、無答率が高くなる傾向がある。また、問題に慣れていないこともあり、正答率も下がる傾向にある。そのため、説明や証明についてあつかう時間を確保し、解答の方法に慣れさせる必要がある。また、その必要性や有用性を理解させることが大切である。そこで、様々な場面(授業・定期テスト・課題)で同様の問題を取り扱っていく。</p>
技能	<p>全体としては、昨年4月調査の結果からは好転しているが、県の平均と同程度かやや下回っている。問題19問中、県の正答率に届かなかった問題は13問あり、技能の習得が9年生の大きな課題である。その中でも「数と式」「方程式」「関数」の領域の問題の正答率が低い。</p>	<p>基本的な技能を再確認し、繰り返し練習・習熟させるための時間を確保していく必要があり、週末課題や小テストで補っていく。また、定着が不十分な生徒には、昼休みや放課後を利用した補充指導を行っていく。問題に取り組ませる機会を、数多く設け、既習内容をいつでも使えるようにしていく必要がある。</p>
知識・理解	<p>全体としては県の平均と同程度かやや下回る結果となっている。問題19問中、県の正答率に届かなかった問題は8問である。差が大きかった問題は、「図形の計量」「関数の関係やグラフ」である。また、十分に定着している生徒とそうではない生徒にはっきりと分かれてしまう傾向が強い。</p>	<p>基礎的な知識を身につけきれない生徒に対しては、繰り返して復習させる必要がある。そのためにも、まず学習に関する良い習慣を身につけられるとともに、個別指導の機会をできるだけ設定し、意欲を高めていく。また、小テストや定期テストなどに出題していき、生徒にも必要性を意識させていく。</p>

全体の概要

本校正答率は、県の正答率をやや下回っている。到達度分布では、「十分達成」の生徒の割合が、県よりも低く、「おおむね達成」が県よりも高い。「要努力」の生徒の割合は県より高い。

なお、意識調査における「理科の勉強は好きだ」に「当てはまらない」と答えた生徒は20%で、県の13%を上回っている。また、「理科の勉強は大切だ」に「当てはまる」と答えた生徒は22%で、県の29%を下回っている。学力向上の手立てにより、理科への興味を高め、苦手な生徒を少なくしたい。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
思考・表現	<p>本校正答率は、県平均をやや下回っている。消化酵素や魚の呼吸などの生物に関する領域は、県平均よりやや上回っている。地学的領域の問題で雲のでき方に関する実験から考察する科学的思考が最も下回っていた。実験内容と自然事象のつながりを密接にすることが課題である。</p>	<p>・授業中、積極的に発言をするが、探究的な取り組みが不十分で、思いつきの発言が多いようである。発問に工夫をし、じっくり考えて答える場面を多く作ることで、科学的な思考力をつけたい。</p>
技能	<p>本校正答率は、県平均を大きく下回っている。技能領域の問題2問中、天気用図記号の風向を読みとれていない生徒がほとんどであった。天気図等を使用した技能の定着が必要である。</p>	<p>・実験の手順・方法を確認する時間を今まで以上に確保し、目的意識を持って実験・観察に取り組めるように丁寧に指導していきたい。</p>
知識・理解	<p>本校正答率は、県平均を大きく下回っている。領域別の正答率では、生物的領域では、県とほぼ同じであったが、地学的領域、物理的領域では大きく下回った。天気用図記号の読み取りにおいては、無回答の割合が県の2倍に達していた。また、法則を利用した計算ができていない。定着を深める小テストなどの手だてが必要である。</p>	<p>・2年次と比べると、大きく改善されている。小単元での問題プリントをし、学習内容を確認した成果といえる。さらに、細かな単元で、プリント学習をすることで、学習内容の定着を図りたい。</p>

全体の概要

全体的に県平均を上回っている項目が多い。学校や家庭生活、友人関係、学習の規律について特に肯定的な回答が多く、自他共に認め、満足している。家庭学習に課題が見られる。

①数値が特に高かった項目

	項目	本校	県
24	学校に行くのは楽しいと思う。	68.0	47.7
42	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	32.0	16.7
23	学校の授業の復習をしている。	36.0	20.8
54	国語の授業で意見などを発表する時、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している。	28.0	14.7
6	自分には、よいところがあると思う。	36.0	23.2

分析

68%の生徒が学校が楽しいと答えていることから、小中一貫を通して、統一した学校生活のルールや学習の規律などにより、落ち着いた学校生活を送れている事が伺える。

取り組み

今後も、落ち着いた学校生活を送る事ができるよう、学習指導の改善や、教育相談などに力を入れていきたい。特に、教室環境の整備や、教科の枠を超えて統一した学習形態の工夫改善を行う事により、『分かる授業』を通して生徒の学習意欲の喚起と理解の定着を図っていきたい。

②数値が特に低かった項目

	項目	本校	県
15	学習塾(家庭教師含む)に通っていない。	66.0	49.3
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	48.0	59.8
82	解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を解こうと努力しましたか。	42.0	52.8
21	学校の宿題をしている。	64.0	72.0

分析

家庭学習が定着していない生徒が多く見られる。塾に通っていない生徒も半数以上おり、自主的に家庭学習の時間が確保できていない。宿題として、復習を中心とした学習はできているものの、それ以外の自分の計画的な学習や予習は、半数以上の生徒ができていない。また、文章で考えたり答えたりしようと努力する生徒が少ない。

取り組み

授業中に、家庭学習の仕方や予習の仕方などについて説明し、家庭学習につなげたり、文章で答える問題に取り組ませたりする。また、教科ごとに出ている宿題を見直し、週末に時間をかけて取り組む課題を準備する。部活動引退後に、サマースクールや放課後学習などを行い、受験対策の学習を行う。自分で計画を立てて家庭学習をすることが難しい生徒には、個別に支援を行う。